

# 委託事業実施内容報告書

## 平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 委託事業実施内容報告書(A)

受託団体名 (特活)国際交流の会とよなか(TIFA)

#### 1 事業の趣旨・目的

##### (A) 高校生のための生活日本語講座

生活の中で必要な日本語学び、また、在籍する高等学校での授業についていける日本語の習得を進め、充実した学校生活を送り、自立できるようにする。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
5月20日	島本、衛藤、村上、藤原、本間	高校生のための日本語集中講座の年間計画・方針・広報の仕方	夏の講座の日程、会場、指導方針、講師、カリキュラム、広報の仕方について協議する。
7月11日	島本、村上	夏期高校生のための日本語講座の具体的な運営について	教材の選定、5日間の講座の時間割、生徒の交通費について、講座の運営について協議する
7月25日	衛藤、島本、村上	夏期高校生のための日本語講座を運営するにあたり、具体的な役割分担について	会場の下見を兼ねて、教室の設定、アンケート、講座終了後の反省会について協議する。
9月2日	衛藤、島本、藤原、村上	夏期高校生のための日本語講座の反省、冬期講座のプログラムについて	話す → 書く → 発表する の授業の形を基本とする。冬期講座の日程と内容について協議する。
10月26日	衛藤、島本、藤原、村上	冬期高校生のための日本語講座の内容、具体的な運営について	住まいのミュージアムの見学をいれ、体験的に日本文化を学ぶ。見学をうけて感想などを話す→書く→発表を通じて日本語指導をする。
12月7日	衛藤、島本、藤原、村上	冬期高校生のための日本語講座の運営、具体的な役割分担について	住まいのミュージアムの案内方法、Show and Tellを使った日本語指導について

			て協議した。
2月1日	衛藤、島本、藤原 村上	冬期高校生のための日本語 講座の反省、春期講座のプロ グラムについて	生活者としての視点から の日本語指導の導入、教 材、指導方法、指導内容、 クラス分け、広報、新入生 の参加について協議した

写真1(後日送付)

### 3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称： TIFA 高校生のための日本語  
大阪府内の新渡日の高校生を対象に、夏期、冬期、春期休みを利用して、生活に必要な日本語及び、高等学校の教科(現代社会、日本地理、歴史、英語、作文)を学ぶ機会の提供。
- ② 開催場所： 浪速人権文化センター、住まいのミュージアム、大阪人権センター
- ③ 学習目標：
  1. 生活に必要な日本語の習得
  2. 日本の社会制度・歴史・地理・文化・習慣等に関する知識の習得
  3. 生徒の母語を使った日本語学習サポート
  4. 学校の教科学習に対応できる日本語の習得
  5. 少数点在する生徒同士の交流の場の提供

#### 【講義内容】

- ①「現代生活・日本語カタログ」(識字・日本語センター作成)及び自主教材を使って、生活に密着した日本語の習得
- ②日本の文化、制度、社会常識を学ぶ
- ③高校の現代社会・地理、英語の補習
- ④日本文化・歴史、習慣を、体験を通じて学ぶ

#### 【研修会】

- ①上記の教材「現代生活・日本語カタログ」を作成者から作成意図、使い方の講義を受け、大人向けに作成された教材を高校生向けに使用できるように教案作成する。
- ②高校生のための日本語指導のカリキュラムおよび自主教材の作成

#### ④ 使用した教材・リソース：

現代生活・日本語カタログ 1、2巻(大阪識字日本語センター作成)、自主教材、  
ストーリーで覚える漢字300(くろしお出版)、マンガで学ぶ日本語表現と日本文化(アルク)  
Elementary stories for Reproduction 1 (by L. H. Hill)

⑤ 受講者の募集方法

大阪府立学校在日外国人教育研究会の協力を得て、全大阪府立高校管理職にメールにて案内を配信、(特活)国際交流の会とよなかの HP、ニューズレターに掲載、大阪識字日本語センターの HP に掲載、地域の国際交流協会にチラシを配布、日本語ボランティア教室に案内チラシを配布、子どもの日本語指導グループに案内情報提供、

添付資料:各講座の案内チラシ ①夏期高校生のための日本語講座、

②冬期高校生のための日本語講座、③春期高校生のための日本語講座

受講者の総数 31 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑥ 開催時間数(回数) 11日(講座数 33) 各講座 1.5 時間 1 講座のみ 3 時間

講座数32 X 1.5 時間 + 3 時間 = 51時間

夏期講座 5 日間、冬期講座 2 日間、春期講座 4 日間の集中講座

\* 当初 13 日間実施予定であったが、インフルエンザによる休校が影響して、長期休みの短縮、学校行事の変更などで、実施日を確保することができず、11 日間の実施になった。

⑦ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月27日(月) 13:00~17:00 3講座	授業 3 時間	15人	中国語 6人 ダリ語 1人 フィリピン語 2人 タイ語 2人 スウェーデン語 1人 韓国語 2人 ポルトガル語 1人	教授者 2人 補助者 3人	自己紹介、日本語レベル分け、職業・健康法について 作文、発表指導、現代生活・日本語カタログ使用
②	7月28日(火) 13:00~17:00 3講座	授業 3 時間	15人	中国語 6人 ダリ語 1人 フィリピン語 2人 タイ語 2人 スウェーデン語 1人 韓国語 2人 ポルトガル語 1人	教授者 3人 補助者 3人	地理(日本、世界)地図の読み方、大阪府の地理について学習、履歴書の書き方指導、自主教材使用
③	7月29日(水) 13:00~17:00 3講座	授業 3 時間	13人	中国語 6人 ダリ語 1人 フィリピン語 2人 タイ語 2人	教授者 3人 補助者 3人	労働をテーマに、最低賃金、労働条件、雇用保険、社会保

				韓国語 1人 ポルトガル語 1人		険、労働スタイル、求人票の見方について学習 英語を日本語に翻訳する時に気をつけること、基本的な英文法指導、自主教材使用
④	7月30日(木) 13:00~17:00 4講座	授業 3 時間	10人	中国語 3人 ダリ語 1人 フィリピン語 2人 タイ語 2人 スウェーデン語 1人 韓国語 1人	教授者 4人 補助者 3人	インタビュー形式で日本の習慣、世界の習慣、日本の行事、世界の行事について意見をまとめる作業をして、発表する。 英語を日本語に翻訳することで日本語指導、自主教材
⑤	7月31日(金) 13:00~17:00 3講座	授業 3 時間	12人	中国語 5人 ダリ語 1人 フィリピン語 2人 タイ語 2人 スウェーデン語 1人 ポルトガル語 1人	教授者 3人 補助者 3人	日本の政治について、三権分立、基本的人権について 自己紹介作文指導
⑥	12月25日 13:00~17:00 1講座	3時間	13人	中国語 4人 台湾 1人 フィリピン語 2人 タイ語 3人 ダリ語 1人 インドネシア語 1人 スウェーデン語 1人	教授者 1名 補助者 7名	『住まいのミュージアム見学』180年前の大阪の町並みを再現したミュージアムで案内を聞きながら、体験学習、ワークシートを作成

⑦	12月28日 13:00~17:00  2講座	授業3 時間	10人	中国語4人 台湾1人 フィリピン語1人 タイ語2人 ダリ語1人 スウェーデン語1人	教授者1名 補助者6名	Show and Tell の手法で、見学 したことを再 度写真を見な がら、語彙の確 認、感想を書く 指導と発表指 導、自主教材を 使用
⑧	3月17日 13:00~17:00  3講座	授業3 時間	11人	中国語6人 台湾1人 フィリピン語1人 タイ語1人 韓国語2人	教授者2名 補助者4名	初級上級合同 オリエンテー ション、他己紹 介、初級：漢字 をストーリーで 覚える。上級： 生活の中で使 われる漢字、求 人案内に出て くる漢字の読 みと意味、自主 教材を使用
⑨	3月18日 13:00~17:00  4講座	授業3 時間	13人	中国語6人 台湾1人 フィリピン語1人 タイ語2人 ダリ語1人 韓国語2人	教授者3名 補助者4名	初級：友達作り をテーマにエピ ソードを書いて 発表（自主教 材）上級1：アル バイト面接のた めの周辺会話 練習。 上級2：「すご い」生徒ってど んな生徒をテー マに話しあう（自 主教材）
⑩	3月19日 13:00~17:00  4講座	授業3 時間	12人	中国語4人 台湾1人 フィリピン語1人 タイ語3人 ダリ語1人 韓国語2人	教授者3名 補助者4名	初級1：漢字学 習（生活者のた めの漢字）、初 級2：マンガを 使った、1人称 の表現につい

						て(マンガで学ぶ日本語表現と日本文化)、 上級:ペアまたはグループで互いの経験などをインタビューをして、レポートを作成する。 自主教材を使用
⑪	3月20日 13:00~17:00 3講座	授業3 時間	12人	中国語5人 台湾1人 フィリピン語1人 タイ語3人 韓国語2人	教授者2名 補助者3名	私の宝物をテーマに作文、発表をする。初級用と上級用に作成した自主教材を使用

⑧講座教授者・教授補助者・教案作成者の名簿

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	役割
安田乙世	大阪YWCA	日本語講師、日本語教育、中国語	11回	教授者、教案作成者、教授補助者
吉田英美	龍谷大学留学生センター	日本語講師、日本語教育	14回	教授者、教案作成者、教授補助者
埋橋淑子	大阪大学留学生センター	日本語教育、英語	2回	教授者、教案作成者
寺尾美登里	龍谷大学留学生センター	日本語教育、スペイン語	2回	教授者、教案作成者
山田久美子	大阪市立南高校	国語科教員、日本語教育	3回	教授者、教授補助者
大倉 安央	大阪府立門真なみはや高校	社会科教諭	3回	教授者、教案作成者
柳澤 勤	大阪府立長吉高校	国語科教諭、日本語教育	7回	教授者、教案作成者
橋本義範	大阪府立八尾北高	社会科教諭	7回	教授者、教案

	校			作成者
酒井清夏	大阪府立長吉高校	国語科教員、日本語教育	3回	教授者、教案作成者
寺嶋辰美	大阪府立長吉高校	国語科教諭、日本語教育	3回	教授補助者、教案作成者
札葉 正隆	大阪府立西野田工科高校	英語科教諭 英語教育	3回	教授者・教案作成者
島本真知子	(特)国際交流の会 とよなか	元中学校英語教諭	12回	教授者、教案作成者、教授補助者
衛藤真須美	(特)国際交流の会 とよなか	元小学校教諭	12回	教授補助者、教案作成者
藤原麻佐代	(特)国際交流の会 とよなか	高校非常勤講師、日本語教育	11回	教授者、教案作成者、教授補助者
松浦齋美	(特)国際交流の会 とよなか	英語教育	2回	教授補助者、教案作成者
本間幸代	(特)国際交流の会 とよなか	日本語教育	2回	教授補助者
村上自子	大阪府日本語教育支援センター (特)国際交流の会 とよなか	スペイン語教育サポーター、日本語教育	13回	教授者、教案作成者、教授補助者

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

(特徴が最もよく表れた日の授業報告を詳細に記載。また、教室風景の写真を数枚添付。)

写真 2 (後日送付)	写真 3 (後日送付)	写真 3 (後日送付)
-------------	-------------	-------------

7月27日

生徒7人 講師・講師補助 5名 後半 B クラス(初級レベル)

教材は現代生活・日本語カタログ 1 巻(大阪識字日本語センター作成)を使用

セクション1「仕事」、いろいろな職業について知識を共有する。それらの職業に必要なことを確認する。

自分のなりたい職業について考えをまとめて発表する。セクション2「健康、「健康アンケート」を通して自分の生活習慣を考える。周りの人の健康法、自分の健康法を話す。

### 12月25日

生徒13人、講師・講師補助 8名 ミュージアム付説明ボランティア 2名

大阪市立住まいのミュージアムを見学し、180年前の大阪の町並み再現を体験する。詳しく説明するグループとゆっくり日本語グループを生徒自身で選びグループで館内を回る。事前に作成したワークシートを持ちながら、館付きボランティアに説明を聞く。講師・講師補助は、ボランティアの説明する日本語が分からない時や補足説明をする。体験所では、着物着用、習字の練習、昔のおもちゃ(おじゃみ、コマまわしなど)を体験する。ワークシートは、28日の作文学習の参考にする。ワークシートは講師が持ち帰り、表記などの誤りやコメントを入れた。

### 12月28日

生徒10人、講師・講師補助 7名

今回初めて参加の生徒もいたので、3分間の自己紹介をする。時間が余った場合は会場から質問をした。25日に集めたワークシートを生徒に返却する。Show&Tell方式で、ミュージアムのポイントを撮影した写真をプロジェクターで見せて、思い出しながら作文を書く。内容は体験の感想でも、感じたことなど本人に任せる。日本語文章が書けない生徒には、スタッフが横につき、気持ちや考えを出させて、語彙や文章につなげていった。その後、一人ずつ皆の前で発表した。

### 3月20日

生徒12人、講師・講師補助5名

『私の宝物』をテーマに、作文、発表をする。前半は日本語レベル別に2つにクラスをわけ、上級は講師の自主教材にある例文を読み合わせ、語彙説明。例文を使って作文指導をする。生徒の文章構成、語彙の使用、助詞の使い方指導をしながら、作文を完成する。初級は、生徒たちの宝物は何かを問う。ブレインストーミングとして、各々の宝物について思い浮かぶことばを、教授補助者を含めた全員で挙げる。話してほしい内容の例を挙げながら確認。ペアとグループになってワークシートに従い、自分たちで考えた質問も入れながら、お互いの宝物について聞きあう(ぐるぐるインタビュー形式)。休憩後に初級・上級クラスと合同で発表

## ⑩ 研修会の具体的な内容

回	開催日時	時間数	参加者	内容
①	5月16日(土) 13:30~16:30	3時間	20名	大阪大学言語文化研究科教授 西口光一氏 講演: 1.現代・生活カタログ(大阪識字・日本語センター作成)の企画意図[主旨・目的・対象]について 2.成人向けに使用する場合のアドバイス・使い方 3.高校生を想定した使い方・日本語指導へのアドバイス ワークショップ: 使い方について実践をしてみる。
②	5月20日(金) 18:30 ~ 21:00	2.5時間	9名	夏期講座のカリキュラム作成、日本語、作文、現代社会、地理、英語の指導内容の検討、教

				材の選定(現代生活・カタログ)、日本語レベルのチェック方法
③	6月17日(水) 18:30 ~ 21:00	2.5時間	11名	夏期講座の教材作成、生徒・講師用アンケート作成、
④	12月16日(水) 18:30 ~ 21:00	2.5時間	9名	冬期講座の教材作成、生徒・講師用アンケート作成
⑤	2月23日(火) 18:30~21:00	2.5時間	9名	春期講座のカリキュラム作成、指導内容の検討、教材作成、生徒・講師用アンケート作成

開催場所：豊中市立蛍池公民館

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
西口光一	大阪大学教授	言語文化研究科教授	1回	研修会講師
桶谷仁美	イースタン・ミシガン大学教授、2008年度国立国語研究所共同研究員	バイリンガル教育	1回	アドバイザー

#### 4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況：

少数点在している渡日生は、精神的に孤立している場合が多いが、安心して日本語を他の高校の渡日生徒と学ぶことで、仲間がいることを知り、繋がっていった。日本語習得には、日数的に十分ではないが、教授者以外に補助者が見つかることで、丁寧に、生徒の日本語指導ができたと思う。参加学習者は安心して日本語を学べる教室であったと、評価をしている。

夏期の講座は、生活に必要とされる日本語と高校の教科学習の補習の2本柱で行った。

カリキュラムにも、英語、現代社会、地理を組み入れ、リライト教材(社会)を作成して丁寧に説明した。労働に関しては、高校卒業後の進路のことを考えて必要な情報なので、2回にわたり説明をした。少ない時間であったので、どこまで生徒に学習成果があったかどうかはわからないが、初めて日本の地理、政治のしくみを分かりやすく学ぶ機会を持った生徒は、知らないことを学べて良かったと評価をしている。

冬期の講座は、体験を通じて学ぶことをテーマにした。180年前の大阪の町並みを再現している『住まいのミュージアム』を見学して、日本の歴史、文化・習慣を学び、それを作文に書き、発表をした。生徒には、初めて知る日本の江戸時代の街の様子や風俗習慣がとても印象的だったようだ。具体例を見ることで、新しい語彙の定着と日本の文化・歴史に対する興味関心が沸いたようだ。

春期の講座は、社会生活・学校生活につながる日本語指導をテーマにした。アルバイトの面接の日本語、求人票の見方、友達の作り方、漢字学習、日本文化・習慣を紹介する日本語指導を、トピック的に指導した。生徒は、それぞれの日本語レベルで、自分の表現したいことを作文、口頭発表できるようにまとめていった。春期講座には、在校生と4月に高校に入学する新入生の参加者があった。新入生の中には、来日4ヶ月の生徒もいたが、学習意欲は高く、貪欲に日本語を習得していた。同じ学校の先

輩、後輩という関係で交流でき、新しく入学する高校への不安解消に繋がったと思う。

## ② 学習者の習得状況：

渡日生には大別して、3通りのタイプがある。①日本の中学を経験せずに高校に入学した、いわゆるダイレクト生徒、母国でしっかりと母語で教育を受けているので、日本語学習に意欲がある。②小学校低学年、または幼児期に来日し、日本の公立小学校に編入したにもかかわらず、学習日本語が定着しておらず、母語力も低い生徒。自分の学力が伸びないのは、日本語力がないという自覚がなく、勉強が嫌いだからと思っている。③中学の時に来日、系統だった日本語指導を受けてきた生徒、日本語学習に高い意欲がある生徒、と学習者の抱える日本語背景は千差万別である。小人数による日本語指導であるが、それでも個々の日本語力ならびに学力・意欲が異なるので、一斉授業ではどうしても、ついていけない生徒がいた。教授補助が入ることで、生徒の語彙を引き出したり、一人では十分に考えがまとまりきれなかった生徒にはヒントを与えた。

## ③-1 日本語教室設置運営の効果、成果：

参加した生徒にとったアンケートより

- ・いろいろな外国人がいて、一緒に勉強してとても楽しかったので、いいと思う。
- ・入学する高校の先輩と一緒に日本語を学び、高校のことをいろいろ教えてもらった。
- ・違う学校の生徒と友達になれて嬉しかった。
- ・日本語のべんきょうができたから良かったです。
- ・授業がたのしかったです。
- ・日本の政治や地理を教えてもらって、とても良かった。
- ・長い文章が書けるようになって嬉しかった。
- ・わからない日本語を先生たちが優しく教えてくれてうれしかった。
- ・日本の昔の生活の様子や、大阪の町のことがわかって楽しかった。
- ・面接の練習や、インタビューの仕方、作文の書き方、履歴書の書き方などを教えてもらって良かった。
- ・先生が優しくかったです。たくさんの先生たちが見回りながら、不安なときにちゃんと説明してくれて、解かりやすかったです。今まで知らなかったことが、初めて学べて得したとおもいます。

参加した講師・教授補助者からは、渡日高校生の日本語レベル、日本語学習における問題点、生活環境、友人関係など、渡日生特有の課題を共通認識できた。また、今後どのような支援が必要かを考える良い参考になったと感想をもらっている。

## ③-2

「日本語力評価システム作成」について

高校生自身が自分の日本語力を知り、日本語学習の目標と学習意欲を高めるために高校生を対象とした日本語能力評価チェックシートを作成することを試みた。

日本語ポートフォリオ改訂版（2006 青木）、国際交流基金「JF日本語教育スタンダード」等を参考に自己評価表の作成を試みた。日本語ポートフォリオ改訂版（2006 青木）の「A0」「A1」については、高校生にも使用することはできると思われた。「A2」以降の項目について高校生向けに作成を試みたが、高校生の実態の把握が難しく、作成することができなかった。

[参考資料]

- 青木直子 (2006) 日本語ポートフォリオ改訂版  
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~naoko/jlp/jlpjp.html>
- 国際交流基金 (2009) J F 日本語教育スタンダード  
[http://www.jpfi.go.jp/j/urawa/j\\_rsorcs/standard/index.html](http://www.jpfi.go.jp/j/urawa/j_rsorcs/standard/index.html)

④地域の関係者との連携について:

第 1 回研修会では、西口光一氏を講師に日本語教材『現代・生活カタログ』の作成趣旨、及び使い方研修会に地域で日本語ボランティアをしている方にも案内をだして、参加してもらった。

高校生の住む地域の日本語教室、行事や教養講座などを紹介して、日本の文化・習慣に触れる機会を提供したい。また、同じ年代の日本人と触れ合う機会を提供したい。

⑤改善点, 今後の課題について:

A.大阪府内の高校生を対象にした日本語事業なので、どこに教室を設置するかは重要課題であった。交通の便が良く、行きやすい場所、安全な場所、会場費が安いところ、連続して会場を借りることができる、と難しい条件があった。このような条件の下に選んだ会場であったが、遠くから通う高校生にとっては、交通費が大きな負担であった。今回は高校教員の講師謝礼金を高校生の交通費に当ててくれる(半額補助)ことで、生徒が参加し易いようにしたが、教室の設定場所は課題である。

B 学習者の日本語力をみていると、日本人なら、当然知っているべき語彙の欠落があることが判明した。例えば、横断歩道、踏み切り、体温計、日本の食材の名前など。日本社会で暮らしていくには、生活者としての日本語や日本文化・制度についての知識が欠かせない。学習言語以外にも社会人として必要な日本語学べる機会の提供を広げる必要がある。大阪府の現況として、地域で高校生の年代が学べる日本語教室は極端に少ない。高校に少数点在する日本語が十分でない渡日生徒は、日本人生徒の中で、十分に自己表現をできずに、孤立する傾向である。学校以外で日本語・日本文化習慣を学べる機会と場所の整備が必要である。また、府内に散らばっている渡日高校生が交流できる機会の提供の必要性を思う。

項目②で書いた、小学校低学年、または幼児期に来日し、日本の公立小学校に編入したにもかかわらず、学習日本語が定着しておらず、母語力も低い生徒。自分の学力が伸びないのは、日本語力がないという自覚がなく、勉強が嫌いだからと思っている高校生は、日本語講座に参加して日本語を学ぶことに抵抗がある。このような生徒の参加を促すことが課題である。

今後の活動予定, 展望 :

可能な限り、日本語指導の必要な渡日高校生のニーズに答えて、生活者としての日本語、また学校教育に対応できる日本語力の向上、日本文化・習慣の理解を促す活動(見学・体験活動)を取り入れながら、渡日生を支援したい。また、少数点在している渡日高校生が日本語を通じて交流できる居場所を提供したい。

⑥その他参考資料

案内チラシ、自主教材、アンケート用紙(講師、生徒用)、

文責: 村上 白子

# 平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

## 【日本語教室の設置運営】(B)

受託団体名 特活)国際交流の会とよなか  
(TIFA)

### 1 事業の趣旨・目的

うまくコミュニケーションでき、必要な文書(特に漢字)が読めるようになる。日頃の日本社会での悩みを相談できる場を作る。

### 2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
7月31日	中川清司、葛西芙紗 チャダナ・アベインゲ 石墨方子、上田万里子	今年度の事業方針	出来るだけニーズにあった対応をしていく。希望者が来やすい様に工夫する。
12月18日	中川清司、葛西芙紗 チャダナ・アベインゲ 石墨方子	状況報告とこれからの課題。とよなか国際交流センター移転の2月中どうするか？	2月は会場がないため休む。3月から実施。参加しやすいように受け入れ体制はそろえて行く。
3月11日	中川清司、葛西芙紗 チャダナ・アベインゲ 石墨方子、上田万里子	1年間の反省と今後。	1年間の報告を聞き今後は自立して実施することになった。

【写真】



### 3 日本語教室の開催について

- ⑧ 日本語教室の名称 とよなかにほんご交流サロン
- ⑨ 開催場所 とよなか国際交流センター
- ⑩ 学習目標 うまくコミュニケーションでき、必要な文書(特に漢字)が読めるようになる。
- ⑪ 開催場所 とよなか国際交流センター
- ⑫ 使用した教材・リソース「みんなのにほんご」「にほんご春夏秋冬」  
「識字・日本語教材 現代生活・日本語カタログ」
- ⑬ 受講者の募集方法  
とよなか国際交流センターのおしらせ、TIFA のホームページ、外国人コミュニティへのお知らせ

など。

⑭ 受講者の総数 50人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑮ 開催時間数(回数) 68 時間 (全33回)

⑯ 日本語教室の具体的内容

回 (※)	開催日	時間 数	参加 人数	国籍・母語(人)	教授者・ 補助者	内容
①	6月5日 19:00-21:00	2	10	ベトナム2・ペルー2・韓国 2・インド2 中国2	教授者1 補助者7	ニーズに応じて、グル ープ別に勉強
②	6月12日 19:00-21:00	2	11	ベトナム3・ペルー2・韓国 2・ネパール2 中国2	教授者1 補助者7	レベル、ニーズに応じ 1-3名に別けて勉強。
③	6月19日 19:00-21:00	2	11	ベトナム2・ペルー2・韓国 2・ネパール5	教授者1 補助者6	同上
④	6月26日 19:00-21:00	2	11	ベトナム2・ペルー2・ネパー ル5・中国2	教授者1 補助者5	同上
⑤	7月3日 19:00-21:00	2	14	ベトナム2・ペルー2・韓国 2・ネパール3・中国2	教授者1 補助者5	同上
⑥	7月10日 19:00-21:00	2	16	ベトナム2・ペルー2・韓国2 ネパール5・中国4 ドイツ1	教授者1 補助者7	同上
⑦	7月17日 19:00-21:00	2	11	ネパール4・ベトナム2 中国4・ドイツ1	教授者1 補助者5	同上
⑧	7月24日 19:00-21:00	2	18	ネパール6・ベトナム2 中国6・インド2ペルー2	教授者1 補助者7	同上
⑨	7月31日 19:00-21:00	3	18	ネパール6・中国5・ペル ー3・ドイツ1メキシコ3	教授者1 補助者9	自由会話。1学期終了 のパーティ
⑩	9月4日 19:00-21:00	2	10	ネパール2・ペルー2・ベ トナム2・中国4	教授者1 補助者7	ニーズに応じて、グル ープ別に勉強
⑪	9月11日 19:00-21:00	2	10	ネパール2・ドイツ2 ペルー2・中国 4	教授者1 補助者6	同上
⑫	9月18日 19:00-21:00	2	11	ネパール3・ドイツ2 ペルー2・中国 4	教授者1 補助者6	同上
⑬	9月25日 19:00-21:00	2	11	ネパール3・ドイツ2 ペルー2・中国 4	教授者1 補助者6	同上
⑭	10月2日 19:00-21:00	2	10	ネパール2・ドイツ2・ペ ルー2・中国 4	教授者1 補助者6	同上
⑮	10月9日 19:00-21:00	2	11	ネパール2ベトナム2 中国4 ドイツ1ペルー2	教授者1 補助者7	同上
⑯	10月16日 19:00-21:00	2	13	ネパール2ベトナム4 中国4 ドイツ1ペルー2	教授者1 補助者7	同上
⑰	10月23日	2	12	ネパール2ベトナム4	教授者1	同上

	19:00-21:00			中国4 ペルー2	補助者7	
⑱	10月30日 19:00-21:00	2	12	ネパール2 ベトナム4 中国3 ドイツ1 ペルー2	教授者1 補助者7	同上
⑲	11月6日 19:00-21:00	2	11	ネパール2 ベトナム2 中国4 ドイツ1 ペルー2	教授者1 補助者7	同上
⑳	11月13日 19:00-21:00	2	10	ネパール2 ベトナム3 中国3 ペルー2	教授者1 補助者7	同上
21	11月20日 19:00-21:00	2	11	ネパール2 ベトナム2 中国4 ドイツ1 ペルー2	教授者1 補助者3	同上
22	11月27日 19:00-21:00	2	10	ネパール2 ベトナム1 中国4 ドイツ1 ペルー2	教授者1 補助者5	同上
23	12月4日 19:00-21:00	2	9	ネパール2 ベトナム2 中国2 ドイツ1 ペルー2	教授者1 補助者5	同上
24	12月11日 19:00-21:00	2	11	ネパール2 ベトナム2 中国4 ドイツ1 ペルー2	教授者1 補助者5	同上
25	12月18日 18:00-21:00	3	14	ネパール2 ベトナム4 中国4 ドイツ2 ペルー2	教授者1 補助者7	自由会話。2学期終了のパーティ
26	1月8日 19:00-21:00	2	9	ペルー2 中国4 ドイツ1 ベトナム2	教授者1 補助者3	同上
27	1月15日 19:00-21:00	2	8	ペルー2 中国4 ドイツ2	教授者1 補助者3	同上
28	1月22日 19:00-21:00	2	9	ペルー2 中国4 ドイツ2 ベトナム1	教授者1 補助者5	同上
29	1月29日 19:00-21:00	2	8	ペルー2 中国4 ドイツ2	教授者1 補助者5	同上
30	3月5日 19:00-21:00	2	8	ペルー2 ベトナム2 ドイツ1 中国3	教授者1 補助者3	同上
31	3月12日 19:00-21:00	2	8	ベトナム2、中国2 ペルー3 ドイツ1	教授者1 補助者4	同上
32	3月19日 19:00-21:00	2	10	ベトナム2 中国4 ペルー3 ドイツ1	教授者1 補助者4	同上
33	3月26日 19:00-21:00	2	10	ベトナム2 中国4 ペルー3 ドイツ1	教授者1 補助者5	同上

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)



して勉強。中国人、ドイツ人は  
。漢字を勉強したい人、には



しいので、  
に別れて勉

強しています。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
ズン	ベトナム(ベトナム)	2007年	10回	ベトナム人Gの援助
ナリン	中国(内モンゴル)	2000年	5回	中国人の通訳
バティ	ネパール語(ネパール)	2004年	3回	ネパール語の通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
上田 万里子	TIFA 会員 *	読み聞かせの会	30回	指導補助
奥田八重子	TIFA 会員 *	元教育研修所長	26回	指導補助
大矢 季世	TIFA 会員 *	団体役員	21回	指導補助
衛藤ますみ	TIFA 会員 *	元小学校教師	27回	指導補助
岩崎 悦郎	TIFA 会員 *	元高校社会科教師	20回	指導補助
西村 弘子	TIFA 会員 *		18回	指導補助
葛西 道生	大阪大学	元教授	31回	指導補助

\* TIFA会員として会に所属しているが、ボランティアで報酬無し

**4 事業に対する評価について**

- ① 当初の学習目標の達成状況 よく頑張って勉強したので、学習目標は、ほぼ達成できた。
- ② 学習者の習得状況 仕事が忙しいなどで、コンスタントに来ることが出来ない人が多かったが、みな一生懸命勉強し、受講生はコミュニケーションに自信がついた様に思う。
- ③ 日本語教室設置運営の効果, 成果 働く人達が夜急いでやってきて勉強出来るのは受講生にとって大変役立っていると思う。また1対1とか2~3対1で困ったことにも相談に乗ることが出来た。
- ④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等 外国人の先輩の応援を受けることが出来た。  
必要に応じて指導補助者を応援派遣。
- ⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)
  - a. 現状 この教室へ参加したくても、広報不足のために知らない人がいる、
  - b. 今後の活動予定, 展望 より効果的な広報媒体を探す。補助者を増やして、きめ細かな対応出来る「にほん